

総務企画 委員会

調査項目 公共交通体系について

～ 中間報告 ～

◆バス乗車の調査を実施

公共交通は、地域政策と福祉政策が密接に絡みあつて成りたつており、それぞれの分野で有効性が保たれ、効率的に運用されることが重要です。

その上で、平成23年3月1日から実証運行を実施している体系について、全域の「のらマイカー」と「幹線バス」に委員が地域を区分して乗車し、8月4日

12日まで利用者の実態調査を行いました。

この調査は、利用者の満足度や改善意向、運行経路や時間などに対する意見を聞くために実施したものです。調査期間が夏休みということもあり、学生の利用は通常時より少なめでしたが、利用者からは切実な意見を多くお聞きしました。

◆地域特性に合わせたシステム構築に向けて

全地域で共通した利用者の意見として「バスがあることは有難い」「バスは必要で残して欲しい」との声が圧倒的に多く、次いで「時間が合わない」「運行経路を変更して欲しい」などの詳細な意見を伺っています。いずれも利用者にとっての貴重な意見であり、より多くの方が利用しやすい体系を構築することが重要と捉えています。

しかし、利用者一人ひと

りの生活形態は異なり、多くの利用者が乗り合う中で、皆が100%満足できる交通の確立は大変難しい問題です。どの辺りなら折り合えるのか交点を見出し、地域特性に合わせて持続可能なシステムを構築することが、行政の責務です。また、それをチェックし有効性を保つことが当委員会の果たす役割でもあります。

	H23.9 現在の地域別人口 (人)	年間利用者予想数 (人) (幹線バス含む)	地域別利用者一人当りの受益 (円)	
まちなみバス		39,744	340	
のらマイカー	高山地域 (東西南北線)	64,453	107,712	434
	高山地域 (岩滝線)	421	2,628	3,615
	丹生川地域	4,644	9,708	3,039
	清見地域	2,634	13,828	3,125
	荘川地域	1,281	3,780	5,132
	一之宮地域	2,633	1,692	3,014
	久々野地域	3,905	8,340	2,434
	朝日地域	1,884	1,716	8,275
	高根地域	450	4,896	6,270
	国府地域	7,897	7,092	2,623
	上宝地域	3,464	10,620	1,817
	合計	93,666	211,752	1,275

※年間利用者予想数は、平成23年9月の一か月間の利用者見込み数を12倍した数値。

左表は一年間の予想利用者数について、9月に委員会独自調査を実施し利用者数を試算したものです。

これをもとに委員会では、公共交通の役割と高齢者福祉としての交通手段を、どう分担して構築するのが移動手段として最良であるのかを検討しています。

更に、公共交通連携計画に対する財政支出が年間約2億7000万円程度となることから、地域毎の利用者一人当たりに対する受益額などを試算しています。(表参照)

